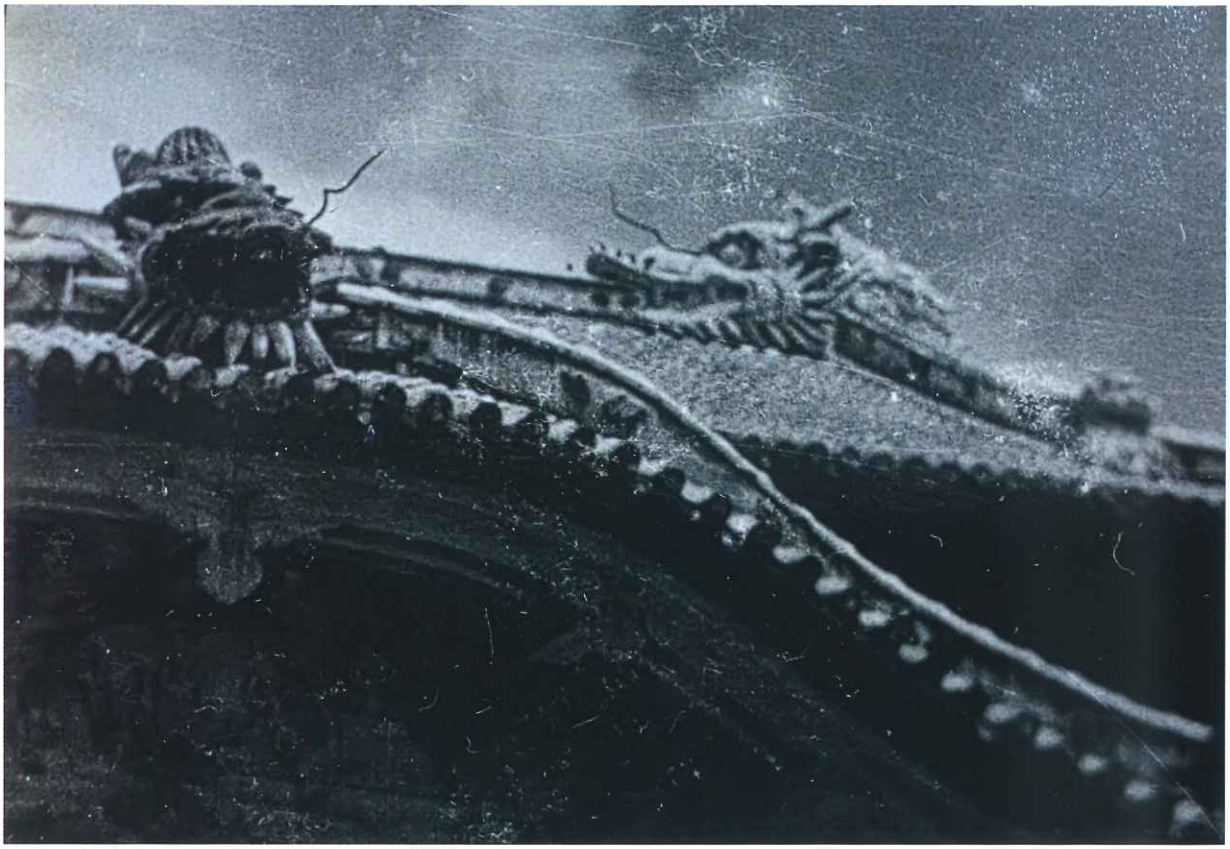
平和で豊かな沖縄県を目指す情報誌

沖縄協会だより

無料
ご自由にお持ち帰り下さい

2026.10
No.40



沖縄平和祈念堂美術館
所蔵絵画紹介

首里城正殿・唐破豊と龍頭棟飾

沖縄協会資料室（沖縄平和祈念堂管理事務所2階）には『沖縄記録・写真集』1939年（昭和14）4月・5月撮影（撮影者不明）収蔵されている。沖縄戦の戦渦に巻き込まれる以前の沖縄を撮影したもので、この写真は首里城の顔ともいうべき正殿の唐破豊（からはふう）と正殿の守り神・龍頭棟飾。

沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会（昭和31年～47年5月）の後を受けて、昭和47年9月20日に設置された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年（2011）4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂を管理運営することで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

公益財団法人 沖縄協会

❖インタビュー記事❖

沖縄の歴史を掘り起こす

沖縄県那覇市出身の映画監督 喜屋武靖 氏にお話しを伺いました。

子供時代は那覇市中心部で過ごしました。父が琉球政府の職員だったので、自宅が琉球政府本庁舎のすぐ近くにあったのです。那覇市立開南小学校に通っていましたが、不発弾処理、爆破予告事件などで授業が中断されたこと、デモ隊が火炎瓶を投げている様子を自宅の窓から見たこと、降りしきる雨の中で沖縄が祖国復帰を果たした日のことなどを印象深く覚えています。上京後、日本映画学校(現・日本映画大学)を卒業し、1990年代から東京に本社を置くキー局、映画会社等でドラマ、映画製作に携わってきました。日本経済新聞社(電子出版部)の仕事で沖縄に詳しい担当者と出会ったことがきっかけで関東在住の沖縄県出身者と縁ができ、やがて横浜・鶴見沖縄県人会、川崎沖縄県人会のように歴史があり、かつ地域に根差した団体へとつながっていきました。2010年代から川崎市出身の詩人・佐藤惣之助の詩碑(琉球諸島風物詩集中「宵夏」の一節が刻まれた「ひんぷん型」の詩碑)を首里城公園に移設した活動に関わったことで沖縄の歴史を本格的に調べるようになりました。上京する前は沖縄の歴史や伝統芸能とは無縁の人生だったので、とにかく史料を読み込んで調べていきます。一つの史料を何周もしているうちに点と点がつながっていく面白さに気付き、すっかり「沖縄史の沼」にはまりました。情報収集は主に図書館やインターネットを利用しますが、神保町の古本屋に行くこともあります。こうして次第に縁が広がっていき、2026年10月には川崎沖縄芸能研究会、川崎沖縄県人会共催で田名真之氏を講師に迎えて「首里城正殿復元完成記念&川崎市・那覇市友好都市締結30周年記念特別招へい講演会『首里城の今、江戸上りの昔～琉球使節の足跡と、令和によみがえる首里城～』を開催することとなりました。

特別招招聘へい講演会のようす

川崎市は、東京、大阪と並んで沖縄出身者が多く、1972年、沖縄が敗戦後27年のアメリカ統治から祖国復帰を果たした時には、沖縄返還記念式典が川崎市内において開催されました。問題を抱えたままの復帰であることから祝賀ムード抜きの式典となり、核も基地もない平和な沖縄への真の復帰に向けた決意が示されていたことが新聞記事に掲載されていて、当時の川崎市長の挨拶文からも同市の沖縄に対する関心の高さがうかがえます。

(週刊川崎新聞　昭和47年5月20日「喜びと不安の錯綜　沖縄返還記念式典』)

伊藤川崎市長挨拶

「きびしい状況の中で27年間続いた返還の闘いは、正に15日を迎えて歴史に新たな段階を迎えた。アジア人同士の殺戮に沖縄から戦闘機が飛び立つ巨大な基地があることを思う時、返還を双手をあげて喜ぶわけにはいかない。真の返還は沖縄県民のため、沖縄県民による自治が確立されなければならず、これから真の返還が始まる。人間を尊重し、平和憲法が県民一人一人のものにならなければならないわけで、この平和憲法と沖縄の心を取り戻すために皆さんと戦い抜きたい」

「沖縄」というと、どうしても沖縄戦を軸に考えられがちですが、戦前の沖縄には、おおらかで腕白な面もあり、ダイナミックな人物もたくさんいました。「悲劇の島・沖縄」は、語りつぐべき重要な歴史ですが、そうではない視点、専門家ではない切り口で歴史を掘り起こしていきたいと考えています。たとえば戦前、伊波普猷などの沖縄の文化人が上京し、世代や思想を超えて東京の文化人と交流していたこと、戦前の「池袋モンパルナス」から戦後沖縄のアトリエ村「ニシムイ」につながっていった芸術家たちの活動などは大変興味深いです。こうして歴史を掘り起こすと、色々なことが出てきます。この掘り起こされた歴史が後々誰かの役に立てば…というよりは、調べれば調べるほどわからないことが増えて面白い。純粋に「沖縄史の沼」を楽しんでいます。

喜屋武靖　氏

那覇高校、日本映画学校1期卒。映画・TV・CMを経て2003年監督デビュー。劇映画制作の傍ら沖縄交流史を調査。2026年「川崎宿江戸上り行列」では膨大な絵画・文献を咀嚼し、虚実相照らして翻案した路上劇の演出・制作を担当した。

沖縄平和祈念堂トピックス

★第46回こどもまつり「こども琉球芸能奉納」

こどもの日の5月5日、第46回こどもまつり「こども琉球芸能奉納」を開催した。子ども達の健やかで心豊かな成長を願い、今できる芸能をとおして平和の尊さ・悲惨な戦争を考え学ぶ機会をつくることが目的。奉納に先立ち、出演者をはじめ堂内すべての方々で戦没者に追悼の思いを寄せ、世界の恒久平和を祈念して黙とうを捧げた。続いて、4歳児から小・中・高校生に沖縄県立南風原高等学校郷土芸能部の部員、沖縄県立芸術大学音楽琉球芸能専攻卒業生の総勢105人が琉球舞踊・器楽合奏(太鼓)・琉球古典箏曲・琉球古典音楽の数々を奉納献奏した。出演者の熱演は、まつりにつめかけた観衆を目を細め、大きな感動を与えた。訪れた観衆は約320人。

琉球古典箏曲献奏

★沖縄平和祈念像「浄め」

6月10日、当協会は恒例の沖縄平和祈念像「浄め」を行った。この浄めは6月23日「慰霊の日」と「令和8年沖縄全戦没者追悼式」、そして6月22日に沖縄平和祈念堂で行う「令和8年沖縄全戦没者追悼式前夜祭」を厳粛な気持ちで迎えるために実施しており、毎年慰霊の日の前と年末の2回実施している。今回は沖縄バス㈱・東陽バス㈱のガイド、沖縄県工芸振興センターの皆さん、そして、平和祈念像の制作に従事された糸数政次さん(当協会理事・浦添市美術館長)が参加し、平和祈念堂職員とあわせて28人で実施した。参加者は、戦没者に対する慰霊と世界の恒久平和を願い平和祈念像の埃を払い浄めた。

＊　＊　＊

★第11回ぬちぬぐすーじさびらコンサートin摩文仁

6月13日、「第11回ぬちぬぐすーじさびらコンサートin摩文仁」(主催・レクイエムコンサート実行委員会、共催・沖縄県立芸術大学、沖縄協会)が開催され、約230人の聴衆が沖縄平和祈念堂に訪れた。演目は、モーツァルトの「レクイエム」と「アヴェ・ヴェルム・コルプス」。沖縄県立芸術大学オーケストラにソリスト、沖縄レクイエム合唱団の合計100人が出演。厳かなオーケストラの演奏と堂内に響き渡る美しい歌声に聴衆は深く魅了され、演奏終了後には感動とともに惜しみない拍手が送られた。

沖縄県立芸術大学オーケストラ・沖縄レクイエム合唱団

★第17回琉球王朝禮楽奉納演奏

6月20日、戦後81年沖縄戦で犠牲になられた方々の御霊の慰霊と平和を祈念して、第17回琉球王朝禮楽奉納演奏(琉球王朝禮楽保存会主催)が開催された。演奏は、琉球王朝時代より受け継がれている王府おもろ、クェーナ、御座楽や路次楽、琉球古典音楽湛水流などが奉納された。聴衆は首里城を中心に演じられた厳かな禮楽の調べに、琉球王朝に思いを馳せ魅了された。最後は、これら禮楽の継承に尽力した日本の音楽学者・沖縄の音楽家の山内盛彬(1890～1986)作曲の「ひやみかち節」を出演者・聴衆で歌った。

琉球王朝時代の宮廷音楽「路次楽」の演奏

＊　＊　＊

★令和8年沖縄全戦没者追悼式前夜祭

6月22日、当協会は令和8年沖縄全戦没者追悼式前夜祭を開催した。この行事は、慰霊の日と沖縄県・沖縄県議会が主催する令和8年沖縄全戦没者追悼式をより意義あらしめるため、沖縄県、(一財)沖縄県遺族連合会、(公財)沖縄県平和祈念財団の共催を得て毎年開催している。第一部式典では、来賓・ご遺族・琉球古典音楽献奏者・琉球舞踊奉納者代表者・一般の方々が参列するなか、「鎮魂の火」の献火、「平和の鐘」の献鐘を合図に全員で黙とうを捧げ、続いて代表者による献花が行われた。次に、清水治会長より「私達は、現在の生活が幾多の尊い犠牲の上に築かれたことを決して忘れず、戦争への反省と世界平和への決意を新たにし、戦没者追悼の象徴である沖縄平和祈念堂から全世界の人々に、恒久平和の実現を訴え続けていくことを誓う」と鎮魂(しづたま)のことばを述べた。第二部は、前夜祭の主題を表す琉歌三首を歌唱する琉球古典音楽「瓦屋節・金武節・辺野喜節」の合同献奏を琉球古典音楽湛水流保存会・琉球古典音楽安冨祖流絃聲会・琉球古典音楽野村流音楽協会・琉球古典音楽野村流保存会・琉球古典音楽野村流伝統音楽協会と琉球箏曲興陽会・琉球箏曲保存会の代表の方々で行われた。次に琉球古典音楽独唱献奏と琉球古典箏曲の献奏が行われ、琉球古典音楽野村流保存会の上原伸浩さんと箏伴奏の新崎毎子さんで「本調子述懐節」、琉球箏曲保存会の喜友名美智子さんと山城真理子さんによる「江戸菅攪・船頭節」が献奏された。舞踊奉納は、琉球舞踊穂花会・宮古舞踊んまていだの会家元・亀浜律子さんと門下生3名に琉球舞踊「稲まづん」、宮古舞踊「とうがにあやぐ」「大世栄」が奉納された。沖縄が誇る伝統芸能の粋を結集した古典音楽・古典箏曲の献奏、舞踊奉納の数々に参列者は魅了された。

琉球古典箏曲献奏

沖縄協会だより
2026.10 No.40
● 2026年10月発行
● 発行／公益財団法人 沖縄協会(沖縄平和祈念堂) 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁448-2 TEL.098(997)3011 FAX.098(997)2678
〈HP〉http://www.okinawakyoukai.jp

沖縄平和祈念堂トピックス

★慰霊の日「平和の魂－オオゴマダラ」の放蝶

6月23日、令和8年沖縄全戦没追悼式前夜祭関連行事の「平和の魂－オオゴマダラ」の放蝶を行った。蝶のことをギリシャ語でプシュケ(「魂」の意)ということから、沖縄平和祈念堂「清ら蝶園」で平和の〝魂〟としてオオゴマダラを育て、戦没者を追悼し世界平和の実現を祈る沖縄平和祈念像の使者として慰霊の日に摩文仁の空へ放蝶している。今回で20回目。放蝶に先立ち、参加者全員で正午にあわせて平和の鐘の献鐘、戦没者慰霊と恒久平和を祈る黙とうを行った。続いて、ガールスカウトの児童生徒や関係者34人でオオゴマダラ蝶20匹の放蝶が行われた。その後、ガールスカウトの皆さんは堂内に移動し、参加にあたり心を込めて折り上げた折り鶴を平和祈念像に奉納するセレモニーを開催した。

放蝶のようす

★高市早苗内閣総理大臣来堂

6月23日、高市早苗内閣総理大臣が沖縄平和祈念堂を訪れた。高市総理は、沖縄県・沖縄県議会主催、当沖縄協会共催の「令和8年沖縄全戦没者追悼式」に参列のため来沖し、国立沖縄戦没者墓苑の参拝に続いて平和祈念堂に到着された。平和祈念堂では高市総理を清水治当協会会長と上原良幸副会長、池田克紀専務理事が出迎えた。また、正午の黙とうの後に行う平和の魂－放蝶セレモニーに参加するガールスカウトの児童生徒や関係者も出迎え、高市総理も一同へ気さくに声をかけられた。

高市総理大臣

★第34回祈りと平和の集い

8月15日、沖縄宗教者の会主催による「第34回祈りと平和の集い」が沖縄平和祈念堂で開催された。この催しは県内にある各宗教が共に手を携え、宗教者が心ひとつになって「沖縄から世界にひろげよう平和の祈り」をスローガンに、戦没者の鎮魂と永遠の平和を祈る沖縄の心を象徴する霊域摩文仁にそびえる平和祈念堂から祈りを発信することを目的に行われている。進行はプログラム順に各宗教および宗派独特の祭事が行われ、沖縄戦全戦没者の御霊に追悼を捧げ、各地で発生した自然災害や戦争による犠牲者の方々に深い哀悼の意を表し、世界の恒久平和を祈念した。

協会関係事業他募集案内など

★沖縄平和祈念堂改修工事に伴うご寄付のお願い

沖縄平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後、さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様に諸経費に対するご寄付を賜りますようお願い申し上げます。ご連絡いただきましたら、ゆうちょ銀行専用の振込票を送付させていただきます。また、インターネットを利用してのご寄付も可能です。Syncable(シンカブル)というプラットフォームにアクセスしていただき、団体を探すページから「沖縄協会」で検索してください。

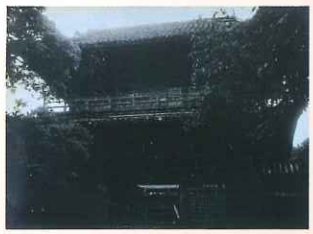
公益財団法人 沖縄協会
【電話番号 03-6231-1433】

写真で見る戦前の首里城 Vol.5

2019年火災により焼失した首里城正殿は、2026年秋の復元を目指して着々と整備工事が進められ、11月22日に復元完成式の開催が決まった。沖縄協会資料室(沖縄平和祈念堂管理事務所2階)には、沖縄関係図書約5,800冊を所蔵しているが、その中に、『沖縄記録・写真集』1939年(昭和14)4月・5月撮影(撮影者不明)があり、写真は沖縄戦の戦渦に巻き込まれる以前の沖縄を撮影したもの。当時の風景・建築物(首里城・崇元寺・識名園他)・人物(琉球舞踊他)・街並み・動植物など146枚がある。首里城正殿の復元にあわせて、戦前の首里城とその周辺をシリーズで紹介する第5弾。

首里城・龍頭棟飾り

首里城・大龍柱


円覚寺・山門

弁財天堂・天女橋